



J A管内ではアスパラガスの春採り栽培が盛んに行われていますが、2019年より春から秋まで収穫し続けられる長期立茎栽培をスタートしております。アスパラガス生産者からも注目を集めている栽培方法についてご紹介します。

JA管内では、アスパラガス部会員73人が25畝で作付けしており、年間平均約26トンを出荷しています。近年、株の老朽化や茎枯病などによる連作障害の影響で、過去に比べ出荷量の減少が見受けられている中、2019年に新たな生産者の掘り起こしや出荷量増加を目的とした「アスパラガス部会長期採り栽培研究会」を設立致しました。栽培希望者を募り、現在は会員4人が約1157の圃場で作付けし、今年産は長期立茎栽培だけで出荷量4.5トンを計画しています。また、同研究会員らの栽培4年目の農業粗収益は、107あたり100万円ほどを見込んでいます。

長期立茎栽培とは、萌芽から一週間ほど春採りを行った後に立茎を開始し、夏秋採りに移行する栽培方法です。株を定植した1年目は養成を行い、2年目の4月下旬から収穫がスタートします。立茎後は除草や週1回程度の定期的な防除、生育状態に合わせた灌水管理などがとても重要となります。

春採り後は収穫をストップし立茎作業に入るため、田植え時期と被らず、稲作とアスパラガスの複合農業経営が可能となります。アスパラガスは徹底した栽培管理で安定した収量を確保できるため市場からの引き合いも強く、取引単価にも期待できます。

高単価も期待できる 長期立茎栽培とは？

Seeking delicious asparagus 新たな栽培方法を取り入れ、産地振興の起点に

春から秋まで収穫可能な魅力に注目

実績を基に 生産者拡大へ

5月21日には同会員の圃場の土壌分析結果に基づいた講習会を行いました。それぞれの土壌状態に合った施肥設計案を提案したほか、各圃場を巡回し、生育状況の確認と夏秋採りへ向けた栽培管理を指導しました。

今後もJAと県庄内総合支庁農業技術普及課が連携し、圃場巡回や研修会などで栽培技術の早期定着を図り、今年産で収量を確保できたという実績のもとで部会員に勧めながら新規生産者の拡大を目指して参ります。栽培に着手してからも、立茎作業をはじめとした重要な作業工程時は、園芸TACや園芸特産指導員がより徹底した技術指導で生産者を全力でサポートしていきます。

ご興味のある方は、営農販売部 園芸特産課までご相談ください。

TEL : 0235-64-5831 Email : entoku@ja-shonai.or.jp

